



Unifinity との連携でプリザンターのモバイル化を実現。現場の DX を推進し、PDCA の高速化でビジネスに勝つ。

株式会社ユニフィニティ 取締役 西谷 大輔 様
営業グループ 徳山 圭太 様



紙管理からスマホへ移行
スマホ用業務アプリを簡単作成



スマホで入力したデータは
プリザンターで閲覧分析可能



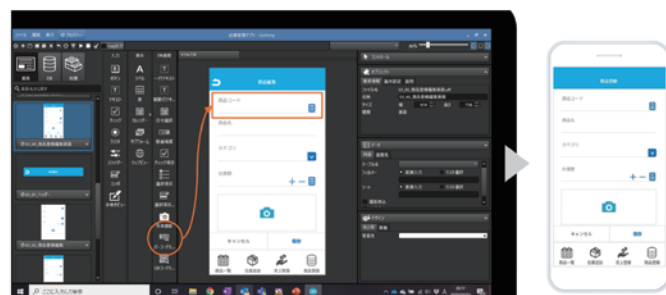
現場のリードタイムを
短縮。生産性向上に貢献

現場の DX：製造業の現場で導入が進む Unifinity で構築したアプリ。 プリザンターとの連携で SI 会社は新たな提案が可能に

ユニフィニティでは、現場で使える業務用アプリをノーコードで簡単に開発できるプラットフォーム「Unifinity」を提供しています。現場で必要な項目や機能をマウス操作だけで自由に配置し、個々が使いやすい画面のアプリを、コードを書くことなく短期間で構築できるのが特徴です。大手企業への導入実績も多く、最近では製造業の工場などの現場で、既存の基幹システムと連携させ、現場入力のモバイル化を図る事例が増えてきています。

例えば、産業機械をグローバルで生産・展開する大手機械メーカーでは、欧州の工場での点検業務のチェックリストを紙からモバイル化する際、Unifinity を使ってアプリを短期間で内製化して導

入。成功したことから、関心を示した他部署でも導入を検討する動きが広がっています。



画面のパーツをマウス操作で自由に配置して、使いやすいアプリを素早く構築可能

連携の利点：Unifinity との連携でプリザンターが得る 4 つのメリット。 現場向けに UI が最適化し、効率化と負担軽減が実現

Unifinity との連携によってプリザンターは新たに 4 つのメリットを提供できるようになると、ユニフィニティの西谷氏は話します。

1 つは、モバイル端末上で動くアプリの UI (ユーザーインターフェース) を現場向けに自由にカスタマイズできることです。

2 つ目が、オフラインでも端末内の内蔵メモリに入力したデータを格納し、オンライン時にプリザンターにデータを送信できること。

3 つ目が、アプリの QR コード・バーコード機能を活用できること。

4 つ目がアプリ上での手書きサインや写真への書き込みも簡単に行えることです。現場の作業について責任者が確認した時に、画面に直接手書きサインが可能。

点検時に写真を撮って、異常箇所を赤丸で囲うなどの機能を実装することもできます。



工場や建設現場、地下など電波が悪い / 入らない現場であっても、Unifinity で作成したアプリは起動するため、報告業務をデジタル化可能

業務改善の可能性：現場のアナログ業務が生産性向上のボトルネック。デジタル化により、工場責任者の負荷も大幅に軽減

現場での紙ベースによる報告業務は、日本では大手メーカーの工場でさえ、まだ多く残っています。そうしたアナログ業務が、実は工場の生産管理の足かせとなっているのが現状です。現場で紙にメモを取り、デジカメで記録し、事務所に帰ってからシステムに入力して管理する方法では、どうしてもリードタイムが長くなります。現場で不良品の発生を認識しても報告にタイムラグが発生し、その間は歩留まりが悪いまま生産を続けることになりかねない状態です。

それが、業務アプリを導入することで、状況は一変します。「紙からシステムにデータを転記する際にありがちな入力ミスがなくなることで精度が向上し、現場の状況をタイムリーに共有することで、問題改善のスピードも圧倒的に速くなります。つまり、管理側で早

急に手を打つことでリードタイムが大幅に短縮され、そうして PDCA を速く回せるようになることで、工場の生産性が向上。結果、ビジネスで優位に立てる可能性が高まるのです」（徳山氏）。



紙ベースでの報告業務をスマホ化することでタイムラグを無くしタイムリーに

将来展開：内製化と SI 会社の支援を切り分けて DX を推進。まずはサンプルを導入し、業務改善効果を検討

Unifinity とプリザンターは共に、顧客企業が業務アプリを簡単に内製できるのがポイントです。「ただ、日本の企業はシステムの内製化の割合が低く、逆に内製化率が比較的高い米国とは逆の様相を呈しているのが実情です。今後は、現場単位で業務改善を図るためのシステムを迅速に内製していくことが重要。日本で DX のスピードがなかなか上がらないのは、この内製化が遅れていることも大きな原因といえます」（西谷氏）。

ただし、アプリの画面を作り込んだり、プリザンター側でダッシュボード機能をカスタマイズするなど BI ツールとして充実させるためには、SI 会社の力を借りて開発することも必要です。「内製化する部分と SI 会社の支援を受ける部分を切り分け、

DX を進めていく考え方が鍵を握る」と、西谷氏は言います。

ユニフィニティーでは、Unifinity のトライアル版を無償で公開し、プリザンターのデモ版を登録して両者を連携して使えるサンプルを提供しています。このサンプルを活用すれば、顧客企業や SI 会社は、現場のデータをどのように蓄積・活用できるかを試すことが可能です。「製造業の工場や建設業の事務所など、現場単位で手軽に導入を図るのに非常に有効。まずはサンプルを試しに使って、改善の可能性を見極めていただきたい」と、西谷氏は話しています。



URL : <https://www.unifinity.co.jp/>
所在地：東京都渋谷区道玄坂 1-16-5 大下ビル 8F
設立：2006 年 4 月
資本金：3 億 6,375 万円（資本準備金を含む）

業務用モバイルアプリのノーコード開発プラットフォーム「Unifinity」を展開。従来、主に現場においてデータを紙にメモして事務所で入力するなど手間が掛かっていた業務を、スマートフォンやタブレットにその場で直接入力できるアプリを簡単に内製化することを実現。

導入事例全文は Web で！ <https://pleasanter.org/>



株式会社インプリム

〒165-0026 東京都中野区新井 1-12-12 モデリアカローズ中野 2F
Tel: 03-5942-6640 Fax: 03-5942-6650
<https://implem.co.jp>